

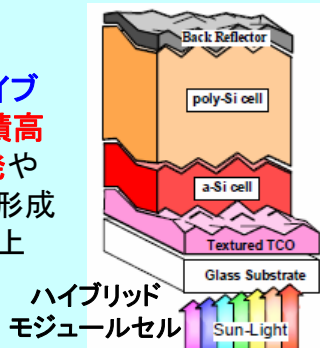
2. 平成19年度追跡調査結果

①平成19年度詳細追跡調査において新たに把握した主な上市事例(1/6)

①-1. 薄膜シリコンハイブリッド型の製膜装置開発により量産化に成功(カネカ)

NEDOの技術成果

薄膜シリコンハイブリッド型の大面積高速製膜技術開発やモジュール連続形成時の歩留まり向上



実用化の状況

ハイブリッド型太陽電池を平成14年に上市。アモルファス型と併せて**現在年産55MW**。海外の市場拡大の波に乗り、**積極的に海外展開**。平成22年には**年産130MW**を目標に事業を拡大



平板瓦一体型
(ハイブリッド型)

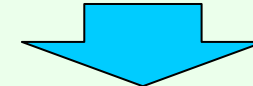


シースルータイプ
(アモルファス型)

「太陽光発電システム普及加速型技術開発(H12～H13)」(写真提供:株式会社カネカ)

期待される経済的・社会的波及効果

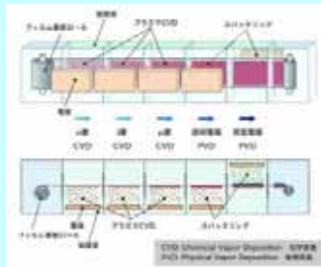
薄膜系太陽光発電の普及により、産業競争力強化に貢献するとともに、エネルギー代替や環境負荷の軽減が促進



①-2. 軽量・フレキシブルな特性を利用した展開(富士電機システムズ)

NEDOの技術成果

プラスチックフィルムを基板としたフィルム型アモルファス太陽電池を低コストで製造する技術を開発



ステッピング・ロール技術

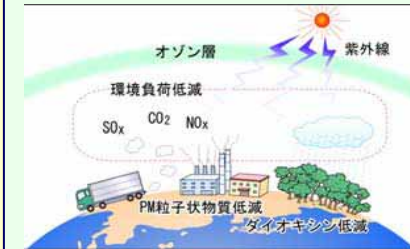
実用化の状況

自由な形状での施工、軽量等の特性を活かした設置が可能に。平成18年に熊本工場にて生産開始。現在**年産12MW**。平成21年には**生産能力を40MWに増強**予定



愛知万博での設置例

「太陽光発電システム普及加速型技術開発(H14～H15)」(写真提供:富士電機システムズ株式会社)



環境への負荷が少ない社会の実現